

—ファドの夜—

Noite de Fado

A TASCA

2009年2月19日



峰 万里恵 (うた)

飯泉 昌宏 (ポルトガル・ギター)

高場 将美 (ギター)



1ª parte

1. ポルトガルの家 *Uma casa portuguesa*

詞：レイナウド・フェレイラ (1922 - 59 詩人)

曲：ヴァシコ・ド・マトシユ & アルトゥール・ヴァシユ

ポルトガルの家によく似合う、テーブルの上のパンとワイン。だれか扉を叩く人があれば、その人はみんなといっしょにすわる。貧しいことの喜びは、人に与えて、それで満足するという豊かさにある。窓のカーテンに月光と太陽。素朴な喜びには、ほんのすこしのものでじゅうぶん。愛とパンとワイン、鍋で湯気を立てている緑のスープ。

石灰の白壁、ローズマリーのほのかな香り、庭には金色のブドウびと房、バラが2輪。青いタイルの聖ヨセフ様、春の太陽、キスの約束、わたしを待っている両腕。ここはポルトガルの家にちがいない！

2. ペルセギサオン (わたしを追いかけないで) *Perseguição*

詞：アヴェリーノ・ド・ソウザ (1880 - 1946 歌手、劇作家)

曲：カルロシュ・ダ・マイヤ (1878 - 1921 歌手、ポルトガル・ギター奏者)

わたしから得るものはなにもないのに、どうしてあなたは、わたしを追いまわすのですか？ わたしは結婚している、決してあなたのものにはなれないと知っているのに。

あなたは、わたしを愛人にしようと思ってる。浮気心なのか、見栄のためなのか？わたしには貧しい夫がいる。彼は気高い魂をもったひと、わたしの情熱のすべて。

見張りの番兵のようにわたしは、しっかり目を開いて、昼も夜も、注意深く気を配っている。わたしは、いつでも見廻りの歩哨 (ほししょう)、わたしの夫の名誉を守って。

3. ファド・ポルトウゲシユ (ポルトガルのファド) *Fado português*

詞：ジョゼ・レジオ (1901 - 69 詩人、小説家、大学教授)

曲：アライン・オウルマン (1928 - 90 作曲家)

ファドが生まれたその日、風は落ち着きなく、あちこち揺れていた。空が海を押し広げていった、とある帆船の甲板の先のところまで、とある船乗りの胸のところまで。男は悲しみの中でうたっていた。

「ああ、なんとという美しさだったろう！ わたしの道、わたしの山、わたしの谷、茂る木の葉、花たち、黄金の果物。スペインの陸が、ポルトガルの砂が見えるか？ 涙にかすれたわたしのまなざし。

母よ、さようなら。さようなら、マリーア。わたしが教会で誓ったことを、体にしみこませて覚えておいておくれ。いま神様は、わたしを海に埋葬しようとしている」

頼りない帆船で大海を行く、とある船乗りの口に、痛ましい歌が死んでゆく。そのくちびるが、いまキスするのは空気だけ。

4. コインブラ *Coimbra* 詞：ジョゼ・ガリヤールド (1986 没 劇作家)

曲：ラウウ・フェラオン (1890 - 1953 劇場音楽家)

ポプラ並木のコインブラ、おまえは今もなおポルトガルの愛の首都。歌の都コインブラ、わたしたちにとって、おまえは愛の泉。

コインブラこそは、夢と伝説の授業。講師は1曲の歌、月が大学。教科書はひとりの女性。合格できるのは「サウダード」と言えるようになった人だけ。

5. 神様お許してください *Que Deus me perdoe*

詞：ジョアオン・シウヴァ・タヴァールシュ (1893 - 1964 劇作家、ラジオ制作)

曲：フレデリコ・ヴァレーリオ (1813 - 1982 劇場音楽家)

わたしの閉ざされた魂をお見せできたら、わたしの物言わぬ悩みを語ることができたら、あらゆる人がわかるだろう。どんなにわたしが不孝か、どんなに喜びのふりをしているか、うたいながら、どんなに泣いているか。

わたしはうたうとき考えない、人生にある悪いものを。歌ではわたしは真実を愛することができる、夢見ることもできる、すべてが幸せだと。悲しみなんかないと。

神様許してください。もしそれが罪なのなら。わたしはこういう人間。ファドに逃げてゆきながら、わたしから逃げていました。もしファドに愛をもつことが罪なのなら、神様、わたしを許してください。

6. 黒い船 [暗いはしけ] *Barco negro*

詞：ダヴィッド・モウラオン＝フェレイラ (1920 - 99 詩人、小説家、大学教授)

曲：カコ・ヴェーリョ (1919 - 71 コントラバス奏者、歌手) & ピラチーニ

朝、砂浜で、わたしは震えながら目を覚ました。あなたの目が、わたしを好きだと言

った。そして太陽の光が、わたしの心に刺しこんだ。……その後、わたしは見た。岩の上に、十字架。そしてあなたの船は、光の中で踊っていた。わたしは見た、あなたの両手。嵐にはためく帆のあいだで、わたしになにかを告げようと振られていた……。浜の老女たちは言う。あんたはもう帰ってこない。彼女たちは頭がおかしいんだ。

わたしは知っている、愛するひと、あなたはまだ出発しなかったことを。わたしのまわりのすべてが、わたしに言う。あなたはいつも、わたしといっしょにいると。

ガラス窓に砂を打ちつける風のなかに——うたっている水の流れのなかに——消えかけている火のなかに——ベッドのぬくもりのなかに——だれもいない腰掛けに——わたしの胸のうちに——あなたはいつも、わたしといっしょにいる。

2ª parte

1. ファド・ロペシュ変奏曲 *Variações sobre o Fado Lopes*

曲：マリオ・ジョゼ・ロペシュ（1960 没 ポルトガル・ギター奏者）

ギターラ（ポルトガル・ギター）による変奏曲です。この楽器は 19 世紀後半から、他の国でのクラシック・ギターのような地位を占めていました。酒場のファドの歌のバックで、単純にかき鳴らされているいっぽうでは、劇場やサロンで演奏会が開かれました。コンサートでは、有名曲あるいは演奏者自作のテーマと、それにもとづく変奏を数回繰り返す——というスタイルが、昔から多かったようです。

2. 腕を出して、こっちへ来て *Dá-me o braço, anda daí*

詞：ジョアオン・リニャールシュ・バルポーザ（1920 - 99 作詞家）

曲：ジョゼ・ペドロ・ブランク（ポルトガル・ギター奏者）

わたしに腕を出して、そこから出ていっちゃい。あなたに寄りかかって、わたしはうたいたい、月の光の下、夜が終わるまで。

この赤いバラで、わたしはもっとおいしそうに見えるでしょう？ あなたのそばでは、わたしは気取りなくなる。浮かれものの人生をおくる 3 人——あなたとわたしと、このバラの花。

あなたと並んで過ごすよるこびを感じたい、あの女を横において。あの、ファドもうたわなない女、あなたがわたしをだました、その元になった女。

それから郊外の料亭へ行って、ファドで騒ぎましょう。この浮かれものの人生のすばらしさ。夜が更けたら、ドアの外であなたにキス。ドアを開けて、あなたを愛す。

3. にがいアーモンド *Amêndoa amarga*

詞：アリ・ドス・サントス（1937 - 84 詩人、朗読家） 曲：アライン・オウルマン

わたしは、あなたのことを語る。だれもそう思っていない。でもわたしは言う——わたしのアーモンド、わたしの友であり兄、愛情のかたまり、わたしの家、わたしの庭。あなたゆえに、わたしは生きる。だれもそう思っていない。でもわたしは歩みつづける。

白い小さな花が咲き乱れる道を。かぎりないやさしさを求めて、イバラの中を。

あなたゆえに、わたしは死ぬ。だれもそれを知らない。でも、わたしは、死のアーモンドの味がするあなたのからだを待っている。絶望の味がするアーモンド。おお、わたしのにがいアーモンド。わたしの、欲しいアーモンド。

4. ジューリア・フロリーシュタ [花売りのジュリア] *Júlia Florista*

詞・曲：ジョアキーン・ピメンテーウ（歌手） 曲：レオネーウ・ヴィラル

ジュリア・フロリーシュタは、ギターラのひびきに乗ってファドを生きた。花を売っていた。でもその愛は、決して売らなかった。足にはサンダル、ならず者のような乱暴な歩きぶり、ジュリアが通ると、彼女の歌を聴こうとリスボンが足を止めた。

おお、ジュリア・フロリーシュタ。わたしたちの記憶に、時が刻んだ、おまえの美しい物語。おお、おまえの声はこだまする、わたしたちのリスボンの、ポヘミアンでファディーシュタの、街々の夜ごとに。

5. このおかしい人生 *Estranha forma de vida*

詞：アマーリア・ロドリーゲス（1920 - 99 歌手）

曲：アルフレード・マルスナイロ（1891 - 1982 歌手）

神様の意思だった——わたしが、このように思いまどいながら生きているのは、すべての「アイ！」はわたしのもの、わたしのサウダードも。——神様の意思だった。

なんという変わった生きかたを、このわたしの心はもっているのだろう。なくしてしまった命で生きている、だれか運命を変える魔法の杖をあげればいいのに——なんという変わった生きかた！ ひとり立ちしている心、わたしの命令をきかない心。おまえは人々のなかで道をなくして生きている、かたくなに、血を流しながら……。

わたしはこれ以上おまえについていけない。生まれ、鼓動をやめなさい。どこへ行くのか知らないくせに、なぜ走りつづけることに、こだわるのだ？——わたしはもう、おまえといっしょには行かない。

6. ラグリマ（涙） *Lágrima*

詞：アマーリア・ロドリーゲス

曲：カルロシュ・ゴンサーウヴシュ（ポルトガル・ギター奏者）

悩みでいっぱいになって、わたしは横たわる。そして、もっとふえた悩みとともに起き上がる。わたしの胸に、もう居ついてしまったこんなやりかた、あなたがこれほど好きだというこんなやりかた。……あなたがきらい——わたしは、あなたがきらいと言っている。そして夜は、あなたのことを夢を見る。

いつの日かわたしは、死んでゆくということを思うとき、あなたに会えないゆえの絶望のうちに、わたしは地面にショールを広げる。そしてそのまま、まどろんでいこう。

もしも、死ぬことによってあなたが、わたしのことを泣いてくれるとわかったら、ひとしずくの涙——あなたのひとしずくの涙ゆえに、どんなにうれしく、わたしは命を捨てるだろう。